

特集 高森町史刊行記念

第2回 | 文化・産業編

伝承文化を記録し、伝えること

【文化・産業編／第1章 暮らしと祭り 第1節 高森町の年中行事】

今回の新高森町史『文化・産業編』は、第一章が「暮らしと祭り」というタイトルになっています。暮らしという言葉には、一日、一年、一生などさまざまな時間軸があり、衣食住、仕事、冠婚葬祭などさまざまな事柄が含まれますが、新町史では年中行事と祭りを取り上げています。実は、最初に年中行事がくるのは、町史としては珍しい構成となっています。これは、年中行事というものは暮らしのリズムであり、それは地域の文化や産業と深く関わることから、これらを理解する基盤になるという編集者様方の判断があったと推測されます。

例えば、高森町には正月のフクガリやコエカエシ、初午、野焼き、山の神祭りなど、牛馬関連の行事や信仰が数多く残されています。かつて牛馬は最も身近な大切な動物でした。人々は牛馬とともに田畑に出て働き、牛馬に載せて物を運んでいました。田畑に欠かせない肥料生産の役割も担っていました。農業の機械化が進み、自動車も普及して、社会構造は大きく変化しましたが、かつて牛馬とともにあった暮らしや、牛馬に対する先人たちの想いなどを、年中行事を通して知ることができ、暮らしの移り変わりを実感できるかと思います。

ところで、年中行事に関しては1979年に出された前町史でも詳しく紹介されています。そこで、改めて新町史で取り上げるにあたり、

以下のようなことを心掛けてみました。

年中行事には、その実施日、一連の儀礼、飾る物、供える物、食べるものなどにすべて意味があります。それらを詳しく解説し、さらに熊本県や阿蘇地域での事例も加えることで、高森町の文化的特徴などがわかるようにしました。また、前町史から40年という時を経て、社会の変化とともに年中行事も変化していますので、アンケート調査を行い、現在の状況を確認しました。そのうえで改めて、町の伝承文化を詳細に記録に残し、後世に伝える必要性を感じ、現在はおこなわれなくなったもの、新しく年中行事として定着したものなど、さまざまな年中行事をとりあげました。しかし、筆者の力不足と、コロナ禍での調査不足などで、取りこぼしてしまったものがたくさんあるのではないかと思います。高森町の皆様が、それぞれお住まいの地域の行事に興味を持ち、それを次世代に伝えていくきっかけに、新町史がお役に立てれば幸いです。

熊本県
博物館ネットワークセンター
博物館活動囃託(民俗)

迫田 久美子



高森町の祭りと芸能 —これまでとこれから—

【文化・産業編／第1章 暮らしと祭り 第2節 高森町の祭りと芸能】

高森町では、旧町村ごとに四季折々様々な祭りや芸能が行われてきました。祭りの開催は、地区の人々を守護する氏神への感謝や祈願にくわえて、年に一度、地区の人々が集い、住民同士の交流を図る貴重な機会にもなっています。今回の高森町史では、旧4ヶ町村の代表的な夏祭り・秋祭りを取り上げました。地区の住民の方への聞き取り調査にくわえ、令和4・5年に行った現地での祭礼調査のデータも踏まえ、今現在、どのように各地区で祭りが行われているかの実態把握にも努めました。

高森町では、神輿や獅子舞などを伴う行列のお渡りが行われたり、神楽や神輿歌、獅子舞などの芸能が奉納されたりと、地区の住民が一体となって祭りを行っています。祭りの運営は一朝一夕で行えるものではありません。私たちの生活スタイルが大きく変わっていきななかでも、皆で協力し様々な役割を分担しながら、毎年必ず決まった日時で祭りを行うことは、今後ますます重要な意味を持つてくるかと思っています。

また、神楽や神輿歌、獅子舞など各地区で独自のものが伝承されており、町や県の文化財として指定を受けているものもあります。大分や宮崎から伝わったという伝承を持つものもあり、「高森」という地域の歴史を考える上でも重要なものです。これらは長い歴史のなかで受け継がれてきた貴重な地域の宝ですが、その一方で、近年その継承が難しくなっていることもみえてきました。では、地

域で伝承された祭りや芸能をどのように継承していくのか。これは高森町に限らず、日本各地の祭りや芸能が抱える課題でもあります。例えば、野尻川上神社の獅子舞のように、子供達に担い手として関わってもらうことも一案でしょう。こうした小学校や中学校などとの連携も、これからは重要となってくるかと思っています。

さらに、今回の町史で興味深かったことは、各地区で盆踊りが盛んに行われていたことです。高森町の盆踊りといえば峯の宿ばんば踊りがよく知られていますが、それ以外の地区でも、盆の時期に新仏や祖先の霊を慰めるための盆踊りが行われていました。例えば、津留地区や草部社倉地区の盆踊りは、これまで報告書などでは報告されていませんでした。今回の町史編さん事業を通じて、記録に残すことができたことは大きな意義があるかと思っています。

最後に、今回の町史編さん事業は covid-19の大流行時期と重なりました。これにより、数年間、全国各地の祭りや行事が中止されました。高森町でも、これを機に行われなくなったり、かつてのやり方を変えた祭りや行事があります。今回の町史編さんが、ある時代の記録として残されることで、今後、祭りを再開する際の手がかりとなれば幸いです。



調査風景 上色見 2022年



天理大学
人文学部 歴史文化学科
准教授

松岡 薫



草部吉見神社夏祭り